



全国連合退職校長会

会報



巻頭言

「魅力ある職業」への途

副会長（関東甲信越地区）

新沼 隆三

コロナ禍の長い一年が間もなく終わる。卒業式、入学式を学校関係者の皆様は特別な感慨をもって迎えることだろう。

先の「節分」の日、注目すべき2つの発表があった。公立小学校の「35人学級」に係る「改正義務標準法」の閣議決定と本年度採用の公立小学校教員の試験倍率が、調査開始以来最も低かった昨年度の28倍を更に下回る27倍となったことである。

ここ数年、倍率は低下傾向にあったが、質の維持が難しくなると言われる「3倍」を2年連続で下回った事態は深刻である。教員の長時間労働というネガティブなイメージが背景にあることは想像に難くなく、我が国の義務教育、特に初等教育は国際的にも極めて高い評価を得ているだけに、看過できない問題である。

長時間労働の解消等、働き方改革については、各自治体と学校が一体となって、推進プログラム等による様々な改善策に取り組み、勤務時間管理や教職員意識改革等が着実に浸透しつつあるという。が、一方では自助努力のみでは限界との声も少なくない。自治体・学校はもとより、関係団体等も含め社会全体で取り組むべき課題である。

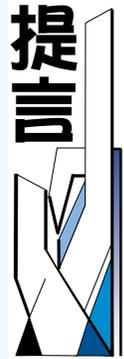
全国連合退職校長会（以下「全連退」）では、これまで「教育公財政支出の増額・人確法の堅持と給与改善・義務標準法の改正・小学校の専科教員の増員・義務教育費国庫負担制度の復元・チーム学校の充実」等々、国への要望活動を継続的に行っている。この中の、労働環境や処遇等とのかかわりの深い「義務教育費国庫負担制度」と「人確法」について、若干ふれてみ

たい。

御案内のとおり、前者は義務教育の内容・水準の確保に必要な財源を安定的に保障する責任を国が負うこととする制度だが、負担率が3分の1に後退し、残りは支途に縛りのない地方交付税措置となって15年、本制度の趣旨と現実との乖離を感じるのは私だけであろうか。後者は、教員給与の優遇措置等による優れた人材の確保と学校の教育水準の維持向上をねらいとするものだが、一般公務員に対する教員給与の優位性は年々低下の一端をたどり、効果はわずかなものとなっている。成立当時のような効果はともかくとして、先人の遺してくれた本法の高邁な精神に、もう一度立ち返ってほしいという願いがこの要望には込められていると私は解している。

学校の働き方改革の推進は、これからが正に本番である。

「全連退」55の構成団体は、その総意による要望の実現を活動の基軸としながら、重層的な学校支援体制構築の一翼を担っていかなくてはならない。



三十五人学級の実施に向けて

副会長 (東海北陸地区)

江本 隆

新型コロナウイルスの感染による社会全体の閉塞感が続く中、40年ぶりの義務標準法改正による「35人学級」の実施という嬉しいニュースが飛び込んできた。今回は小学校のみで中学校は見送られたが、全連退も要望し続けてきた最重要項目でもある。新型コロナウイルス感染対策である教室での「三密回避」が大きな力となった。

しかし、次年度からの5年間で約1万4000人の教員が必要となり、「質の高い教員の確保」、「教室の確保」、「労働環境の改善」という三つの大きな課題が浮かび上がってきている。これらの課題は、行政側(文科省、都道府県、市町村教

委)に委ねられるものがほとんどであるが、学校現場も多くの課題を抱えそうである。新型コロナウイルス感染への対応の中、次年度からの4年間は、35人学級の学年と40人学級そのままの学年が混在する。その状況の中で、今まで成果を上げてきた少人数指導をどうしていくのか。加配の見込みの薄い中での人材の確保や、足りない使用教室をどうするのか、課題が山積みである。また、若手教員が増える中、教科指導のみならず、教員としての総合的な人間力の育成も、今まで以上に求められる。

こうした学校現場の課題を通して悩みや苦しみに共感し、少しでも応援や手助けしていきたい。経験もある退職校長会の私達である。学校運営協議会など、地域と学校を繋ぐ組織にも請われたら積極的に参画し、学校の考えを尊重し協力していきたいものである。

中学校の35人学級の早期実施に向けて、全連退としての強い要望を国に出していきたい。

今を楽しもう

副会長 (中国地区)

山本 比香流

岡山県退職小学校長会では5年に一度「会員動静録名簿」を発刊している。会員の動静に加えて近況を寄せてもらっている。近況に書かれていることを、

いくつか紹介すると「気の向くままに、好きな旅行や野菜つくりを楽しんでいる」「青春18切符の旅は止められない」「卓球やヨガを開始、脳トレの英会話と写真も今が最高かも」「人生のゴールデンタイムをボランティアやアウトドアの趣味で過ごしている」「田にレンゲを蒔いて、花時には子ども達に開放している」「まだまだ初めてのことがたくさんある。チャレンジは楽しい」

新型コロナウイルス禍で制約の多い中、老いや病氣と付き合いながらも、今の生活を楽しんでいる様子が伺える。大きな仕事から解放さ

れたのだから、これまでできなかったことを、今、しっかりと楽しんでほしいと思う。

一方で「いくら高齢になっても国内外の政治や教育への思いを断ち切ることができない」と書いている人もいます。教育に関連する仕事に就いたり、何らかの形で関わったりしている人も多い。

岡山県退職校長会では、年に一度、教育委員会の関係課長と小・中・高の県の会長を招いて教育問題懇談会を開催し、教育の現状や問題点などを話し合っている。今年は、コロナ禍の状況をプラスに捉え、授業や行事に対する意識が向上している等の報告を受けた。これらの内容を全会員に送付して、それぞれの活動の参考にしてもらっている。

私達は、今の人生を楽しみながら、その上で、教育界に対して、なんらかのお手伝いを少しでもできたらと思う。



30周年を契機に更なる高みを

沖縄県退職校長会

会長 山田 稔

沖縄県退職校長会は、「尊敬と信頼に応え、沖縄県の教育の充実・発展に貢献できる退職校長会（貢献・親睦・連携）」をキャッチフレーズに5つの運営方針、5つの努力目標を掲げ、中でも、「善行児童生徒表彰事業」「教育の日制定要請活動」を2大事業・活動として、学校や教育行政機関の応援団として活動している。

本会は、令和元年度に結成30周年を迎えたことから、令和2年12月に結成30周年記念式典・祝賀会の開催を予定していたが、折からのコロナ感染症拡大防止の観点からやむなく中止となった。しかしながら、記念誌だけでは何とかな行なうことができ、結成30周年事業の痕跡を残すことができたことは何よりであった。ところで、本会の2大事業・

活動の一つである「善行児童生徒表彰事業」については、平成11年から学校、家庭、地域社会におけるあらゆる善行活動を通して児童生徒の豊かな心を育むことを趣旨とした事業として推進しており、令和2年度までの22年間で、個人300名、110団体が表彰を受けている。また、もう

一つの「教育の日制定要請活動」については、本県の未制定市町村教育委員会を直接訪問し、教育尊重の気運を高め、教育の振興を期する日の意義を理解させる活動を継続しているところ

であり、令和2年9月現在、41市町村中32市町村が制定し、78%の制定率（10市においては90%）となっている。さらに、本

会は令和2年度より新会員の加入促進の一環として、現職校長が退職校長会活動の趣旨への理解を深め、「これから行く道」としての認識を高めることを趣旨として「沖縄県賛助制度」を導入、推進している。

今後の本会の事業・活動の推進にあたっては、結成30周年を契機に、アフターコロナの時代の新たな方向性を模索しつつ、

魅力と創意があり、しかも、会員の生きがいを実感でき、会員相互の絆を深めることができるよう更なる高みを目指したい。

ホームページの有効利用

埼玉県退職校長会

会長 石田 孝作

本会では、ホームページ（以下HP）による会員への情報提供とその共有化に取り組んでいる。コロナ禍、新しい生活様式が求められる中で、HPは、会員との報連相に便利な役割を担っている。本会では平成28年4

月に開設し本年度5年目を迎える。作成の目的は、本部活動状況の支部・班への情報提供であり、支部・班における相互の情報交換等の場の提供にある。また、HPのメリットは会全体の「見える化」を図り、風通しのよい会の運営に寄与することにある。

HPの内容は、次のA、B、C3つの柱により構成されている。

A 本部活動に関する内容

- 事業計画○ 各部活動の報告
- ・ 4部（研究調査・福利厚生

・ 広報・庶務会計）の会議内容の報告

○ 会議報告（支部長会、理事会、定期総会、幹事会等）

B 支部・班活動に関する内容

○ 県内10支部・57班それぞれからの情報提供

C トピックに関する内容

○ 周年事業、関東大会、年金情報等

このHPの利用状況は、訪問数や閲覧数が増加しつつあり、意を強くしている。

5年間を経過していま思うことは、○HPの開設により、本会の歴史・足跡がわかり、支部

・班活動の活性化は、会員相互の交流・連携に寄与している。○各支部・班の活動の様子が把握し易く互いの研鑽の一助となっている。○現職校長もHPを利用でき、近年の新入会員の減少傾向の改善にも役立っている。○コロナ禍における生活でHPは有効な手段となっている。○個人情報保護等への配慮も必要である。

今後、更なる充実を期すために本部と支部のHP担当者間の連携を十分に図っていききたい。

コロナをこえて

富山県退職校長会

会長 結城 正斉

これまで何の不都合も感じることなく行ってきた活動が、コロナ禍のためことごとくできなくなった一年であった。

重篤化リスクの高い我々は密に気を付けなければならぬし、飲食の会合も諦めなければならぬ。このため、これまで力を入れてきた、現役の後輩達を抱えている問題を解決するための教育委員会事務局との懇談などの取り組みも行えなくなった。

人と人の交流が制限されると、我々の不安は大きく孤立感も増す。退職校長会としても、会員同士の交流の充実を図らなければならぬ。テレビ会議やSNSを用いた方法は、我々高齢者には少々難しい。このため、会報を活用して、これまで以上に会員同士を強く結びつけるこ

とが大切であると考えた。そして、掲載記事を会員にとってより身近なものとなるよう努めた。掲載内容は、

①休校中に近所の子どもの寺子屋を開いたボランティア活動

②遠隔授業など新しい取り組みを行っている学校の紹介

③現在力を入れている教育施策④会員の自由投稿 などである。

また、教育委員会の要請もあり、コロナに対応する学校支援ボランティアを募集していることを紹介した。支援ボランティアとしての活躍は目覚ましい。

また、現職の校長会で、会員同士が繋りあうことの大切さを話し、校長会の充実と退職校長会への入会を訴えた。

今後とも、会員が教育への関心を高めるとともに、明るい気持ちで過ごすことができるよう、会の活動の充実に向けていきな

大阪府立学校退職校長会

春秋会の取組(コロナ禍対応)

会長 田中 保和

本会は、大阪府立学校長の経験者を会員とし、事務所を校長協会に置いて活動し、府立学校教育の振興に寄与するとともに、会員の親睦と相互扶助を図ることを目的としている。

事業としては年2回春と秋の総会(春秋会名前の由来)を開催し、50名前後の参加がある。

(今年度春は中止、会報で議案書送付、秋承認)

総会后、懇親会(今年度は中止)・研究例会(秋のみ、会員の研修目的)を行い、講演会や音楽鑑賞、手品などのイベントにより教養を深め、情操を高めている。今年度は、感染防止対策を徹底して、元大阪府教育長の中西正人氏による講演「大阪の教育行政に携わって―橋下知事との相克と協調―」を実施し、好評であった。

その他の事業として、年2回会報を発行し、総会・懇親会・研究例会の報告、大阪府教育庁・現職校長会の取組紹介、会員近況報告、同期会・クラブ(同好会)活動報告等の記事を記載している。

さらに、年1回会員名簿の発行(年度別会員一覧、連絡網その他の資料を記載)や、クラブ(同好会)活動の奨励(美術・テニス・囲碁・麻雀クラブなど定期的に活動。特に、美術クラブは毎年展覧会を行い、会員数10名の立派な多くの作品を出展)を行っている。

現状では、若手会員と高齢会員との世代間ギャップで敷居が高いとの意見もあり、若手会員や退職時校長の入会促進が課題となっている。今後その解消に向け、現職校長会との連携・協力・支援の充実や活動状況の周知とともに、春秋会役員等の世代交代による若年層化を図るなど、春秋会が魅力あるものとなるよう進めていきたい。

三大事業の推進と発展を期待

徳島県退職校長会

会長 石川 和幸

三大事業とは

- ① 親睦研修旅行・現地研修
 - ② 生きがい作品展（3年毎）
 - ③ 「徳島県校長誌」の発刊
- を大きな事業として活動している。ところが、令和2年度は新型コロナウイルスの影響で大きな事業・行事が中止になった。親睦研修旅行（2泊3日）を楽しみにしていた会員も多くいたが残念であった。令和3年度に、行けなかった同じコースを設定して行く予定。

生きがい作品展（3年毎）は、昨年の1月末に開催できた。その1週間後には「緊急事態宣言」が発せられたので幸運であった。出品点数は262点、入場者数は632人で盛会との好評の声が届いた。会員の皆さんの協力が大きかった。

校長誌は、5年毎に発刊している。令和2年10月第10集が発刊できた。この冊子は50年続く。

定期総会が初の書面議決総会に代えて実施したのも令和2年度の大きなできごとであった。この機会に会則の大幅な改正に着手した。現行の会則は昭和40年に施行されたものであった。今回、大幅な改正をしたのは、次の理由からである。

- ① 令和という新しい元号を迎えた機会に今までの条文を見直し、半世紀以上前の条文が今の時代に合致しているかの観点。
- ② 災害その他の事情で総会が中止になるような非常事態のときの対応についての観点。
- ③ 総会についての詳細な文言がなかったため、その明確化の観点。

具体的な一例として、第十条「総会は、毎年一回開催する。ただし会長又は理事会が必要と認めるときは、臨時総会、書面議決総会を開くことができる。」今後の課題として、会合が少なくなると会員相互の繋がりが希薄になり会員数の減少が心配だ。

高知県の活動状況について

高知県退職高等学校校長会

会長 濱田 治

本県の退職高等学校校長会は昭和36年3月に退職した県立高等学校長が組織した「三六会」と称する親睦団体に端を発し、昭和49年に高知県退職高等学校長会（通称「三楽会」）と名称を変更し、会員を本県の公私立退職高等学校長（含・旧中等学校・盲・ろう・養護学校・特別支援学校の校長）として現在に至っている。また、会の目的を「三楽会発表の目標達成と会員相互の親睦を図る」と、行事を「①会報・名簿等の発行②研修会の開催③その他本会の目的達成に必要な行事」と会則で定めている。

このようなことから本会の主な活動は、総会・研修会の開催、『豊かな日々を求めて』と題した会誌、会員名簿の発行等である。令和2年度は新型コロナウイルス感染症拡大の関係で一部

事業は実施を見送らざるを得なかったが、感染予防対策を取りながら可能な限り実施に努めた。総会は、近年5月の最終土曜日の午後と11月の最終土曜日の午後に行っている。そして、総会終了後、外部講師の講演を主体とした研修会を実施している。講演テーマは、老いを迎える者の生き方とか高齢者が元気に生きがいを持ちながら生活する要

点など、会員が関心を持てる内容になるようにしている。会員名簿の発行については、改正個人情報保護法の施行に伴い本会も同法の適用を受けることになり、発行方法が課題となっていた。検討の結果、個人情報報を名簿に掲載することについて会員に確認し、掲載を希望しない会員については氏名のみ掲載とし、令和元年度から会員名簿の発行を再開した。

このような活動をコロナ禍の時代であっても地道に継続し、本会の目的実現に努めたい。

令和3年度 文部科学省予算案

—— 初等中等教育局関係の概要 ——

総務部長 田中 昭光

政府は令和3年度の教育関係予算案を決定しました。以下、初等中等教育局財務課長 森友浩史氏による説明の概要について報告します。

一 少人数指導によるきめ細かな指導体制の計画的な整備やICTの活用など、新しい時代の学びの環境の整備及び学校における働き方改革の推進

◆義務教育費国庫負担金 (1兆5417億円)
《教職員定数の改善》 (1兆5164億円)

1 学校における働き方改革等 (+3141人)

① 教師の持ちコマ数の軽減や、教科指導の専門性を持った教師によるきめ細かな指導など、小学校の専科指導に積極的に取り組む学校を支援。 (+2397人)

② 複雑化・困難化する教育課題への対応 (+2000人)
2 少人数によるきめ細かな指導体制の計画的な整備(+74人)
義務標準法を改正し、小学校について学級編制の標準を5年かけて、学年進行で35人に計画的に引き下げる。

令和3	744人
令和4	3290人
令和5	3283人
令和6	3171人
令和7	8086人
計	13574人

◆GIGAスクールにおける人的支援・学びの充実・通信環境整備 (47億円)

① GIGAスクールサポーター配置促進事業 (10億円)

② GIGAスクールにおける学びの充実 (4億円)

③ オンライン学習システムの全国展開、先端技術・教育デー

タの利活用推進事業

④ 学習者用デジタル教科書普及促進事業 (7億円)

◆子供の育ちを守る幼児教育の推進 (22億円)

① 幼児教育推進体制の充実・活用強化事業 (18億円)

② 幼稚園教諭の人数確保・キャリアアップ支援事業 (2億円)

③ 教育支援体制整備事業費交付金 (1億円)

◆学校における感染症対策の充実 (14億円)

感染症対応が長期化する中、新型コロナウイルス感染症に負けない学校づくりに向けて以下の事業を実施する。 (4億円)

① 感染症対策等の学校教育活動継続支援事業 (補309億円)

② 特別支援学校スクールバス感染症対策支援事業 (補256億円)

③ 学校等欠席者・感染症情報システムの充実 (補53億円)

◆学校における働き方改革の推進 (2億円)

① 補習等のための指導員等派遣事業 (183億円)

② 学力向上を目的とした学校教育活動支援 (90億円)

③ スクール・サポーター・スタッフの配置 (39億円)

④ 中学校における部活動指導員の配置 (38億円)

⑤ スクールカウンセラーの配置充実 (12億円)

⑥ スクールソーシャルワーカーの配置充実 (52億円)

⑦ 看護師、外部専門家の配置 (19億円)

二 新時代に対応した高等学校改革の推進 (21億円)

⑧ 少子化の進行や高校生の多様な実態、今後のポストコロナ時代における社会システムや産業社会の変化を見据えて、令和4年度から新しい高等学校学習指導要領の順次全面実施に向け、新時代に対応した高等学校教育改革を推進する。 (9億円)

三 教育課程の充実 (31億円)

◆個別最適な学び等の学力向上のための取組の推進 (4億円)

① 理数教育の充実のための総合的な支援等 (19億円)

② 小・中・高等学校を通じた英語教育強化 (4億円)

③ 学習指導要領等の趣旨徹底等及び現代的課題に対応した教

育の充実等

四 道徳教育の充実

(1億円)

五 いじめ、不登校、虐待対応等の推進

(42億円)

◆ いじめ対策・不登校支援等総合推進事業

(76億円)

◆ 専門家を活用した教育相談体制の整備・関係機関との連携強化等

(75億円)

六 子供の体験活動の推進

(1億円)

七 幼児教育の振興

(48億円)

八 キャリア教育・職業教育の充実

(4億円)

◆ 将来の在り方・生き方を主体的に考えられる若者を育むキャリア教育推進事業

(6億円)

九 学校健康教育の推進

(5億円)

◆ 学校保健推進事業等

(1億円)

◆ 学校給食・食育総合推進事業

(35億円)

十 切れ目ない支援体制構築に向けた特別支援教育の充実

(4358億円)

十一 高校生等へ修学支援

(4169億円)

◆ 高等学校等就学支援金交付金等

(158億円)

① 高校生等の授業料に充てるため、年収910万円未満の世帯の生徒を対象に、年額118800円を支給 (4141億円)

② 高校生等奨学給付金(奨学のための給付金) (463億円)

十二 義務教育教科書の無償給与

(33億円)

令和3年度東日本大震災復興特別会計予算(案)

(初等中等教育局関係分)

◆ 児童生徒等のケアや教育支援等

(17億円)

① 緊急スクールカウンセラー等活用事業

(15億円)

② 被災児童生徒に対する学習支援等のための教職員加配

(15億円)

◆ 就学支援

① 被災児童生徒就学支援等事業

(2億円)

◆ 復興を支える人材の育成等地域における暮らしの再生

(15億円)

学校・子供応援サポーター人材バンク

ご登録のお願い

緊急募集中

文部科学省では、学校再開後、各地域において、学校をサポートしていただける人材が必要となる機会も多くなるため、教育委員会等が必要な人材をすぐに探すことができるよう、人材バンクを開設しました。

ご協力いただける皆様からの登録をお待ちしています。
(お問い合わせ先：文部科学省初等中等教育局財務課

03・5253・4111)

授業補助や補習の指導

補習の指導や普段の授業に教員と一緒に入り、つまずきのある子供たちをフォローする学習指導員として活躍

英語科講師・外国人児童生徒の支援

得意な語学を活かして、英語の授業の講師として、英語の授業のアシスタントとして活躍。日本語教育が必要な子供を支援

教員の業務支援

授業教材の準備や電話・来客対応、データ整理、感染症対策の補助など、教員業務全般のサポート役として活躍

部活動指導員

学生時代の競技経験を活かして子供たちの部活動の指導者として活躍

キャリアアドバイザー

企業の勤務経験を活かして、高校生の進路相談や面接の練習等を支援。キャリア教育の外部講師として活躍

ビジネス関連授業の講師

商業高校等でのビジネス基礎やビジネス実務、ビジネスマナー、ビジネス英会話のロールプレイング等の指導支援

福利厚生情報

コロナで経営悪化に配慮し、介護サービス報酬の底上げ
ICT使い健康診断を効率化

生涯福祉部長 岡野 仁司

介護サービス報酬底上げ

〜新型コロナで経営悪化に配慮〜

厚生労働省は1月18日、2021年度に改定する介護保険サービスのの公定価格「介護報酬」の詳細をまとめ、4月からの各サービスの料金が固まった。

新型コロナウイルス感染症拡大の影響で悪化した介護事業者の経営の安定を図るため、訪問介護や通所介護、特別養護老人ホームなどの基本サービスの報酬を引き上げる。

介護報酬は事業者に支払われるサービス提供の対価で、原則3年ごとに見直される。

昨年12月、全体で0.7%のプラス改定とすることが決定している。新型コロナウイルスへの対応などで事業者の負担が増していることから、プラス分を基本サービス報酬の底上げにすべて配分し

た。

また、感染症対策にかかる経費負担分として、4月から半年間、すべての事業報酬を0.1%上乘せする。感染への不安から利用を控える動きがあった通所系介護では、利用者が大幅に減った場合に減収を緩和する仕組みを導入する。

通所介護（通常規模の施設、7時間以上8時間未満）は1%前後、特別養護は2%前後の引き上げとなる。原則1割の利用者負担も増える。

また、感染症対策にかかる経費負担分として、4月から半年間、すべての基本報酬を0.1%上乘せする。

通所系の介護サービス事業者では、新型コロナウイルスへの不安から高齢者が利用を控える動きが広がるという事態での減収の影響

を緩和するため、利用者が大幅に減った場合に期間限定で基本報酬を3%加算できる仕組みなども導入するという。

ICTを使い健康診断を効率化した動き

高齢者の心身が弱っていないかを判定し、改善につなげる「フレイル健診」がある。問診や身体・体力測定といった受診者データの処理を効率化するため、ICT（情報通信技術）を活用する動きが広がっている。

フレイル健診は厚労省が今年度、75才以上を対象に導入した。各市町村などに健診の実施を求めている。

フレイルは65才以上の約1割が該当し、75才以上で大きく増えるとされている。特定健診（メタボ健診）の影響でメタボへの警戒感強いが、高齢者は食が細くなり体重が減ると、筋肉の衰えにつながりかねない。社会的なつながりを失って認知機能が衰えることもある。

フレイル健診の導入には、こうした高齢者特有のリスクを踏まえた対策の必要性が高まったことが背景にある。

国の動きを先取りし、自治体の健診でフレイル健診システムを稼働させている企業もある。

タブレットの画面上で質問に答えてもらいフレイルかどうかを即時に判定し、結果はデータベースに蓄積され、健診を受けるたびに身体・認知機能に変化がないか確認できる。

フレイル健診「8の質問」

- 1 現在の健康状態はどうか
- 2 毎日の生活に満足しているか
- 3 一日三食きちんと食べているか
- 4 半年前に比べて硬い物が食べにくくなったか
- 5 半年間で2〜3kg以上の体重減少があったか
- 6 お茶や汁物などでむせるか
- 7 以前に比べて歩く速度が遅くなったかと思うか
- 8 この一年間転んだ事があるか

教育振興の要望書を郵送

例年、衆参議員会館へ出向いての、国会議員への教育振興・教育の日の制定に関する要望書提出を、今年は12月14日に郵送しました。新型コロナ禍のため

直接の手渡し・説明等ができませんでした。教育振興に関する要望内容は次の通りです。教育の振興に関する要望書

日頃から、教育の振興に対して心強いご支援をいただき感謝申し上げます。

次代を担う子供たちの健やかな成長は、全ての大人たちの願いであり、子供たちが全国どこに生まれ、どんな家庭に育ったとしても、等しく良質な学校教育を受けられるようにすることは、私たち大人、そして国の責務です。

我が国は今、新型コロナウイルス感染症防止と社会・経済活動

再生の最中にあり、全国各地の学校・教職員は、前例のない臨時休校による子供たちの学習や生活の遅れを取り戻し、新学習指導要領の全面実施に向けて、全ての子供にきめ細かい指導を行き届かせようと取り組んでいます。

教育現場への迅速かつ人的・物的両面からの大胆な財政支援によって子供一人一人の学びを保障し、学校教育の充実・振興、とりわけ教職員の定数改善を図っていくことが不可欠であり、喫緊の課題です。

私たち全国連合退職校長会は、全国四十七都道府県の会員、約八万八千人の総意として、左記事項を強く要望いたします。特段のご高配をお願い申し上げます。

要望事項

一 義務標準法の改正に伴う第八次教職員定数改善計画の策

定、義務教育費国庫負担率二分の一への還元並びに新学習指導要領の円滑な実施に向けた左記事項の実現に尽力されたい。

(1) 小学校高学年に教科担任制を導入するため、「英語」をはじめ各教科の専任教員を配置すること。

(2) 「カリキュラム・マネジメント」や「主体的・対話的で深い学び」のある授業改善を積極的に推進するための教員研修を充実すること。

(3) 今後の新型コロナウイルス感染症拡大に備えて、「一人一台」学習端末機の配備や専門支援員の配置等、ICT環境の整備を急ぎ、「オンライン学習」として家庭においても活用できるようにすること。

(4) 教科書無償給与制度を堅持するとともに、「デジタル教科書」をはじめ、オンライン学習に有効な教材や学習システム

ムなどについて研究開発を進めること。

(5) 特別支援教育充実のための「合理的配慮」を支える基礎的環境の整備を図ること。

二 スクールカウンセラーや部活動指導員、スクール・サポート・スタッフ等の増強により「チーム学校」を充実し、「学校における働き方改革」の一層の推進、教員の勤務環境の適正化に尽力されたい。

三 教育界に優秀な人材を得るため、人材確保法の堅持とともに、教員の養成・採用・研修体系の改善と免許制度の改正、教員の職務の特性に見合う処遇改善に尽力されたい。

四 未だ復興途上にある東日本大震災・原発事故を始め、全国各地で続発している地震、豪雨等の自然災害で被災された地域の復興・教育再生のため、迅速かつ積極的な支援に

尽力されたい。

少人数学級の実現と学校における働き方改革の推進等を求める全国集会 開かれる

令和2年11月12日、「少人数学級の実現と学校における働き方改革の推進等を求める全国集会」が参議院議員会館で開かれた。今年は、新型コロナウイルス感染症予防のため出席人数が制限され、参加者総数は100人(例年は300人)、文部科学省から萩生田光一文科相他2名、国会議員は6名(例年は50人以上)の出席だった。全連退からは3人が出席した。午後5時30分から始まり、午後6時20分にアピール文を全国連合小学校長会喜名朝博会長が読み上げ、出席者全員の手で承認した。

少人数学級の実現と学校における働き方改革の推進等を求めるアピール

次代を担う子供たちの健やかな成長は、すべての大人たちの願いであり、子供たちが全国どこに生まれ、どんな家庭環境で育つたとしても、等しく良質な学校教育を受けられるようにすることは、私たち大人、そして国の責務です。

高い水準の豊かな教育を実現するためには「教職員の資質の向上と数の充実」が不可欠です。ソサイエティ5.0時代の到来を見据え、子供たちの可能性を引き出す個別最適な学びを実現するとともに、今般の新型コロナウイルス感染症対応を踏まえ、安全・安心な教育環境を確保しつつ、すべての子供たちの学びを保障するためには、少人数学級の実現やICT教育環境の整備等、新しい

時代の学びの環境整備を進めることが不可欠であり、より一層の良質な教育を子供たちに約束することが、私たち教育に携わる者の責務であります。

また、学校や子供たちを取り巻く状況は、ますます複雑化、多様化、困難化しており、学校における働き方改革は急務となっております。

以上のことを踏まえ、私たちは日本のすべての人々に、次の事項の実現を強くアピールします。

一、ICTの効果的な活用を含むきめ細かな指導の充実、個別最適な学びの実現及び次なる感染症等の緊急時においても、すべての子供たちの学びを保障するため、学級編制の標準を引き下げ、少人数学級を実現すること。

一、教育現場が抱える様々な課題への対応、感染症対応、教員の負担軽減による教育の質の向上を図るため、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーの配置促進やSNS等を活用した相談事業を推進するとともに、学習指導員、スクール・サポート・スタッフ、部活動指導員の配置促進を進めること、また、東日本大震災をはじめとする地震や豪雨等の自然災害により被災した児童生徒のための教職員やスクールカウンセラーによる支援を今後も継続的に行うこと。

一、ICTの活用によりすべての子供たちの学びを保障できる環境を実現し、より一層の質の高い教育活動を実現するため、

「GIGAスクール構想」における人的支援・学びの充実・通信環境整備を進めること。

一、意欲と情熱をもって教育に取り組み優れた教職員を確保するため、人材確保法の趣旨を踏まえた措置とともに、教育の機会均等とその水準の維持向上を図るため、その根幹となる義務教育費国庫負担制度を堅持すること。また、地方財政を圧迫し、人材確保に支障を生じたり、地域間格差が生じたりすることのないよう、義務教育費国庫負担金及び地方交付税の財源確保を行うこと。

一、教育投資は未来の日本への先行投資であり、国の最重要事項であることから、右に掲げる諸方策の実現にあたっては、既存の教育予算の削減や付け替え等によるのではなく、計画的・安定的な財源確保を行うこと。

子どもたちの豊かな育ちと学びを支援する

教育関係団体連絡会（教育関係23団体）

日本PTA全国協議会、日本教育会、全国市町村教育委員会連合会、全国都市教育長協議会、中核市教育長会、全国町村教育長会、全国連合小学校長会、全日本中学校長会、全国公立小・中学校女性校長会、全国特別支援学校校長会、全国連合退職校長会、全国高等学校長協会、全国公立学校教頭会、全国特別支援教育推進連盟、全国へき地教育研究連盟、日本連合教育会、全国養護教諭連絡協議会、全国公立小中学校事務職員研究会、全国学校栄養士協議会、日本教職員組合、全日本教職員連盟、日本高等学校教職員組合、全国教育管理職団体協議会

地方の会報紙より



岩手県公立学校退職校長会会報

「退職校長会だより」第184号

東日本大震災から10年

〜いま思うこと〜

「生かされて明日へ」

宮古地区会 岩船 敏行

「夏の浜辺で泳いでいると、たまに大きな波に襲われて、ぐるぐる巻にされたことがあったよな。我慢していると、水面に顔が出てほっとひと息。そんなことが思い浮かんで来てさ。」

大津波のとき、流れてきた丸太ん棒に夢中になってしがみつき、九死に一生を得た幼少の頃から友が語っていました。

あれから10年、被災地の住民の一員として、たくさんの方々からの心温まるご支援には、今でも感謝の気持ちでいっぱいです。

当時、小生は仕事の関係で山

田町に居りました。大地震・大津波・大火事と続き、なすすべもありません。そんな時でした。

県教委をはじめ内陸部の教職員の方々が、交通事情もままならない中を避難所となった各学校へ駆けつけてくれました。市町村教育長協議会長さんや各学校長さんからは、「学用品などの支援について、学校から学校へ直送という姉妹校方式を探りたい。」という貴重な提言をいただきました。後日知ること

になるのですが、被災県にあつてこのような取り組みができたのは岩手県が早かったようです。全県交流人生が起きていたのだと確信しています。

ただ、せっかく支援に来られたのに、顔を洗う湯も水もままならず、髭ぼうぼうのまま勤務地へお戻りになる男性職員もいました。「申し訳ありません。」と詫言ると、「そんなことありません。がんばりましょう。」と応えてくれた、あの髭の笑顔が忘れられません。

現在も、退職校長会をはじめ

各方面からの激励をたくさんいただいています。こういった「きずな」のおかげで、被災地の復興の槌音は明るく響いているように感じられます。

また、支援から始まった姉妹校方式が、学校間を行き来する姉妹校交流という形で継続していることにも心から感謝いたします。来年度に延期された県大会宮古大会でお礼申し上げたいと思います。コロナにも負けない！

茨城県退職校長会

「会報」第11号

木版画との出会い

笠間支部 多川 伸子

退職して10年。旅行や庭いじり、家事と、時間に追われることなくできる幸せを感じつつ過ごしています。

新たな趣味として取り組んできたのが木版画。きっかけとなったのは、退職を目前とした時期、二人の版画家の作品との

出会いです。

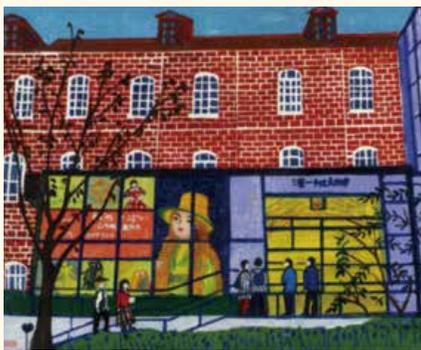
一人は、ジュディ・オング。

下館美術館での作品展で、多色摺り木版画の華やかさとスケールの大きさに魅せられました。

もう一人が、会津出身の斎藤清。只見川の河畔の風景に溶け込むように建つ美術館で見たシンプルな構図の作品からは、優しさと温かさが伝わってきました。

退職後すぐに地元の版画クラブに入会。長い作業工程を経てやっと一枚が完成。やるほどに奥深さを実感。

多くの支えに感謝しながらこれからも続けていきたいと思っています。



版画「三菱一号館美術館」多川 伸子

鳥取県退職校長会会報

「積雲」第94号

私の散歩道

米子 森谷 哲郎

日野川河口から17km付近、川土手や農道が私の散歩道だ。30年来散歩を私の日課としている。

白い月光の下は気持ちすがびんと張る。星空の下は空間の広さを感じる。明かりのない時は、蛙や虫の声に心が落ち着く。自然のおいも感じる。黄緑の光動を見るのも神秘的だ。

退職後、明るい時に歩くことも増えた。遠くの山に点々とみられる桜のあとの藤の薄紫は、一番のお気に入りだ。道端の草花には、季節の移り変わりを感

じる。毎日同じ道を歩くと、まるで生活科だ。植物に詳しくはないが、毎年同じ時期、同じ場所に育つ草花には感心する。

昨年、恩師から我が地域の江戸時代の資料をいただいた。宿・村の興りや地名の由来、当時

の石高や村々の生業、出雲街道との関係、日野川の渡、寺や神社の歴史などなど。今まで考えたこともなかったが、知ること

で、当時の様子を思い描きながらの散歩に、楽しみが増えた。観光地歩きも毎年の行事となっている。新旧がうまく組み合わせられた金沢の街歩きは好きだ。

京都・奈良の仏像・庭・寺社巡り歩きも好きだ。ポイントが点在する鎌倉歩きもまたよい。自粛中の今。代わりの観光地として散歩を楽しんでいる。

埼玉県退職校長会

「会報」第170号

未来を託す

鶴ヶ島 小林 幸美

私はつくづくこの仕事が好きなのだと感じている。

奉職してから40年。ずっと学校教育に携わってきた。定年退職したら：海外に移住して悠々自適の生活を送ろうか、行ったことのない国に旅行三昧、いや

大学に入り直して新たな知識を得るのもいいな…などとあれこれ思い描いていたものの、結局は今も教員の仕事を続けている。

拠点校指導教員として勤務し、今年で3年目になる。現役を一旦終えて退職した私が、これから先の約40年を歩み始める希望だから責任は重い。でも、実はうらやましくて仕方がないのだ。

これからの教員人生を日々一喜一憂しながら子供たちとともに何十年も歩み続けることができるとのだから。どんなドラマが待ち受けているのだろうか。どんな教員に成長するのだろうか。将来活躍する彼らに是非とも会ってみたいものだ。

再任用1年目は初めて中学校勤務を経験した。中学生という多感な時期の生徒の心をつかむ生徒指導や専門性を発揮して豊かな学びを追究する教科指導、熱心に取り組む部活動など先生方の日々の奮闘を目の当たりにすることができた。職員室では主任を中心とした学年経営や毎

朝行われる職集での共通理解など、組織で動くことの重要性も改めて感じさせられた。また、生徒の様々な自治的な活動に触れて、小学生との発達段階の差を実感でき、とても有意義な一年であった。

ところが、今年はこれまでに誰も経験したことのない特別な年になっている。4月8日に子供がいない。教壇に立つことができない。初任者は、校内研修は受けるもののどうも感覚がつかめない様子だ。

ようやく子供に会えたのは5月末。この日の思いはどの初任者も同じであっただろう。新型コロナウイルスの感染防止対策で様々な制約がある中でも子供と一緒に過ごすことができる幸せ。子供あつての教師なのだということを強く感じているに違いない。

機関研修も7月現在すべて学校での自己研修となり、同期の仲間と語り合うこともできない今、学校研修における指導教員としての自分の役割は何かを考

え続けている。

1年後に、すべての初任者に、教師になってよかったと感じてもらえるように、未来に希望をもつて歩き出せるように、あらゆる面で支えになりたいと強く思う今日この頃である。



千葉県退職校長会

「会報」第87号

夢にまで見た

伝書鳩の飼育

市川 深尾 武司

昭和41年4月。6年生の私は

東京大田区から江戸川区の小学校に転校することになりました。世の中は高度成長期で私の父も仕事を独立し、小さな会社を立ち上げたのです。当時、仲間内でのブームに鳩の飼育がありました。私も鳩の生息に魅かれ、みかん箱で作った鳩小屋で2羽の鳩を飼い始めました。何と！父も昔、鳩を飼っていた経験があり、父の援助を借りながらの共同鳩舎がスタートしました。

鳩舎も新築し、血統書付きの鳩を集め、羽数は数年間で150羽にも増えました。鳩レースでは、地元の連合会で優秀鳩舎賞をいただく程になりました。その後、父の会社が不況で倒産。飼育は断念することになりました。

私は「退職したら鳩を飼ってレースに参加したい」という思いを持ち続けていました。幸いにも友人に私と同様、熱心な愛鳩家があり、応援してもらえ、ことになりました。飼育は自宅では難しいため、ささやかですが近くに土地を購入し、鳩舎を作りました。

平成27年4月。退職と同時に鳩の飼育を始めました。私と鳩言葉は通じませんが担任と生徒の関係に近いものがあります。現在180羽の鳩を飼育し、春秋のレースに参加しています。懸命に鳩舎へ戻って来た時の姿を見ると、胸が熱くなります。平成29年秋、水沢からの400キロ菊花賞レースにて連盟総合優勝及び二位。令和元年春、北海道初山別からの1000キロ桜花賞レ

ースでは、当日中に帰ってきたのは一羽のみであり、総合優勝等の成績を収めることができず。これも応援してくださる多くの皆さんのご支援とご協力のおかげです。

今、私の友人と共に、伝書鳩の帰巢本能、生態や歴史等を子ども達に伝えていきたいと考えています。学校や市教育委員会のご理解を得て、数校ですが毎年の運動会での放鳩、昨年は市小学校陸上大会開会式にて放鳩させていただきました。



大分県退職校長会

「会報」第171号

腹話術人形と

共に社会貢献

由布市 山崎 一恵

道のな活動ではありませんが、これからも鳩と共に夢を膨らませていきたいと思えます。来春は最長距離となる北海道稚内からの1100キロレースに挑戦します！

県の腹話術の会員数は、130名。支部数は11で九州でも一番多い。その中で退職女性管理職は17名で、活動の中心的存在である。現在はやめている人も、各地域で活動している人は40名弱。

全支部の年間の活動回数は平均して700回で、地域とのつながりは密で社会貢献も大きいと思う。腹話術は、術者と人形の漫才で、笑いを届ける芸である。人々は笑うことで不思議と元氣をもらう。

しかし、笑いを届けるだけでなく、輝く生き方を伝える演技も工夫している。

子供達には、基本的生活習慣を中心に、友達関係、命の大切さ、食育、人権、交通等のメツ

ステージを届ける。

成人や高齢者には、健康長寿、生き方や生きがい、食や運動、詐欺等のメツステージを人形と共に送り、地域の活性化につなげている。

私は腹話術人形に出会って49年になる。退職後は県内各地で活動している。年に150回位出かけている。

演技の術者は、手や腕だけでなく目、声、喉、脳等体全体を使って、人形と会話し表情を出しながら命を吹き込む。

加えて術者は、台本を書き覚えねばならない。三体使いの場合は三人分の声も出さねばなら



ず、脳トレになる。

人々を笑いの世界に誘う事で術者は脳の活性化、免疫力の強化、運動能力の向上にもなる。腹話術演技は、術者の元氣薬と思っている。

北海道退職校長会会報

「退職校長会たより」第235号

これも、

地域学校協働活動

西十勝支部 岩野 真志

「いつでも休み時間みたいだな。」私の現在の職場、所謂「学童保育所」の第一印象です。私は、退職後1年間の再任用の後、正式名称「放課後児童クラブ」に勤め5年目となります。運営の大まかな指針はありますが、教育目標や学習指導要領等はありません。ここは「児童福祉」を主目的とした児童の生活の場です。保護者が迎えに来るまでの家庭の代替が役割です。子どもたちを「お帰り！」と迎えるのが、私たちのお作法です。

また、子どもに対しての激励や誉め、アドバイス、注意等の声かけやその蓄積はありますが、エピソードの記録です。目的が「育成支援」なので「評価」はなじまないのです。ここも学校と若干違います。

子どもたちは、基本的に自由に遊び、思い思いに過ごします。但し、危険な事や暴力、いじめ等を防ぐため、支援員が見守り、指導的支援をします。また、遊び相手になったり、教材の準備や製作等の指導もします。

学校同様、保護者からお預かりした全ての子が安全で楽しい時間を過ごす場です。児童理解や生徒指導の機能に関するノウハウや保護者対応も学校と共通しています。

学校との連携は重要です。しかし、支援員に学校の敷居は意外に高く、授業参観や行事への参加も遠慮がちでした。「開かれた学校」も外の立場で見ると、道半ばです。責任の一端を担ってきた者として反省しきりです。最近、本町でもコミュニティ

スクール関係の集まりが増えています。私は、現在の職務を果たすことも、学校支援や地域学校協働活動の推進に寄与すると考えています。

皆様も、学校現場の豊かな経験を再び活かすため、お近くの放課後児童クラブの門をたたいてみませんか。子どもたちの笑顔と未来のために。



宮崎県退職校長会会報

「芳馨」第93号

「横断歩道にて」

延岡支部 今原 淳子

秋の交通安全運動期間のことである。信号機のない横断歩道で対向車線に軽トラが停まっていた。見ると、シルバーカーを押す高齢女性が横断歩道を渡るうとしていた。私の車が停車するのを確認すると、女性はゆっくりとシルバーカーを押しながら渡り始めた。女性が車道の中央にさしかかったところで、ハ

ンカチのようなものが落ちた。女性は気が付かないようである。まま歩いて来る。

すると、軽トラの助手席から若い男性が足早に降りてハンカチを拾い女性に手渡し、私にペコリと頭を下げると車に戻った。短い時間であった。

女性は驚いたようにハンカチを持ち、軽トラに振り向きお辞儀をした。運転手も助手席の若い男性も笑顔で頭を下げた。いい笑顔であった。

女性が横断歩道を渡り終えるのを確認して、私は車を発進させた。私まで笑顔になった。



岐阜県退職校長会会報

「彩雲」第194号

「夢プロ」に生かされて

山県市支部 川島 敏美

退職して11年、あつという年の年月であった。これまで健康で生きてこられたのは「夢プロジェクト」という夢中になれる事業に関わらせていただいたか

らだらう。岐阜市の中学生をアジアの国々に派遣し、将来、夢と志をもって生きる若者を育てようとする壮大な事業である。退職とともに始まったこの事業は、岐阜市の前教育長の熱い思いで始まった。

やるべきことは山ほどある。訪問国の選定、研修内容、安全対策、事前研修、帰国報告会、帰国後の生徒への寄り添い等々。出発当日の自信のなさそうな生徒たちが、研修を終えて岐阜に戻るころには、胸を張って誇らしげに出迎えるの家族と対面する。そんな彼らの自信に満ちた笑顔を見ると、来年も新たな企画で頑張ろうと気概が満ちてくる。

最近、成人した若者たちが「夢プロ大同窓会」を計画したり、東京で「夢プロ関東連合」なる同窓会を企画したりして、世代を超えた絆が生まれている。若者のエネルギーを糧として、まるで夢見る少年のような気持ちで毎日を生きる力をいただいている。

五反田だより (事務局)

「あら、いけない。洗たく物……)、夕飯のしたくで忙しい母親は、近くで本を読んでいる六年生の長女に声をかけた。

「お姉ちゃん、わるいけど、洗たく物、取りこんできて!」
「お母さん、また忘れちゃったのね。ハイハイ」

長女は気軽に二階のベランダへトントンと階段をあがって行った、と思つたらすぐ降りてきた。
「お母さん、夕やけがすくすきれい!見にこない?」

「何が夕やけよ!」
「洗たく物はどうしたの!」
と怒鳴れば、それでオシマイ。
「あらそう、見に行くか。」

と、したくを中断して二階へあがり、ベランダの手すりに長女と並んで、
「うわあ、なんてすてきな夕やけ、お姉ちゃん、ありがと!」
母親の様子を見て、長女の胸

には(お母さんが喜んでくれてよかった)という満足感・充足感が湧く。ついで(結構、私もヤルじゃん!これからお母さんのめんどう見ちゃおう)のよ

うな自己肯定感、さらには(私は一番上の姉、家族のことを考えていろいろがんばれるぞ)といった自尊心の芽も顔を出す可能性も……。

家庭生活での何気ないやりとりの中で、子供の心の表出(本人が意識している、していないにかかわらず)を、親がどう受け止めるかが、子供の心の成長に大きな影響を及ぼすことは言うまでもない。

「お母さん、あのね」を正対して受け止めるのはもちろん、言葉に現れない態度や行動としての心の表出も、待って、聴いて、受け止めるよう心掛けたいものである。

「コロナ禍」の中、ステイホームの量が増していることも、一つのチャンスとして生かしたい。
(O・T)

◇1月

- 1 全連退会報218号発行
- 6 文部科学省予算説明会に参加
- 15 部長会、年間紀要編集会議

◇2月

- 15 部長会・年間紀要編集会議
- 24 16 広報部会

◇3月

- 1 広報部会
- 5 部長会
- 12 教育振興部
- 15 全連退会報219号発行
- 16 教育課題委員会
- 25 会計監査
- 31 年間紀要発行



全連退会員
バッジの着用を

全連退会員として、バッジを着用して、会員としての自覚と、つながりを求めましょう。
送料を含めて、一個一、二〇〇円です。
なお、三十個以上まとまりますと、一個一、〇〇〇円となります。
(全連退事務局)

編集後記

○コロナ禍の中、皆様にはいかがお過ごしでしょうか。
○例年12月に行っていた国会議員への要望書提出が、今回は郵送になるなど、不如意なことが多くありました。一日も早く落ち着いた日が戻ることを祈るばかりです。
○「都道府県だより」からはそれぞれの退職校長会がこの困難な時期でも前向きに活動される様子が読みとれます。
○地方の会報紙からの記事も多く転載させていただきました。
○今回も皆様方のご協力で、原稿が予定通りの期日に集まりました。本当にありがとうございました。

全連退会報 (219号)

発行 令和三年三月十五日
発行所 東京都品川区東五反田 五二一三三三三〇八
全国連合退職校長会
電話 〇三三四四二八七六八
FAX 〇三三四四二八七六八
Eメール info@sementai.org
振替口座 〇〇一九〇九四四七二〇
責任者 入子 祐三
印刷 株式会社 信行社
電話 〇三三四三三三六二二